

人が集まる交差点

ちまた公民館

Magazine

浜松のまちなかに

私設公民館ができました!

図解!ちまた公民館

ライターへの滞在記

スタッフ・来館者インタビュー



認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ

2022年度 事業報告書
「ちまた公民館」magazine

発行 2023年3月

発行者 認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ
静岡県浜松市中区連尺町314-30
[電話] 053-451-1355
[メール] lets-arsnova@nifty.com

執筆・編集 ちまた公民館magazine編集部
久保田瑛、幸田穂奈美、杉田可縫、水越雅人

デザイン 安達彩夏 (design hotori)

文化庁委託事業「令和4年度障害者等による文化芸術活動推進事業」

主催 / 文化庁、認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ





はじめまして。ちまた公民館magazine編集部です。
この冊子をお手にとっていただき、ありがとうございます。

2022年10月、浜松中心市街地の紺屋町で、
私設私営の公民館「ちまた公民館」が実験的にスタートしました。
ここは、障害がある人もない人も、誰もが利用できる居場所です。
運営するのは浜松市で23年以上、共生社会の実現を目指し、
活動してきた認定NPO法人クリエイティブサポートレッツです。

自治体や公的機関ではなく、民間のNPOがまちなかで公民館をつくる？

この冊子を手にとった皆さんは、聞いたことのない取り組みに、首をかしげたかもしれません。

「ちまた公民館」の実験は、想像以上の反響を呼びました。
半年で、来館者数はのべ2000人を超え、
市民の持ち込み企画や開催された講座は80以上にのぼります。
まさに、この場所をつくっていったのは、訪れた皆さん、ひとりひとりです。

この冊子では、そんな「ちまた公民館」の概要や日々の様子をご紹介します！
図解やインタビュー、連載コラム抜粋と盛りだくさんな内容になっています。

そして、なぜ、まちなかに「居場所」が必要なのか。
商業施設でもなく、飲食店でもない「場所」があると、どんなことが起こるのか。
そんなテーマも、この冊子の随所に散りばめました。

お手に取った皆さんの日常に、ちょっと余白や遊びが生まれ、
人が交差する「ちまた」ができることを願っています。



まえがき

目次

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツと居場所づくり
「ちまた公民館」ができました 04

図解！ちまた公民館 06

ちま公の日常 前編 07

活動・イベント紹介 10

訪れた人からのひとこと 11

スタッフインタビュー 12

原菜月のコラムシリーズ
ぶれる境界線 15

不器用なミサンガ 16

ちま公の日常 後編 20

編集後記 22





認定NPO法人クリエイティブサポートレッツと

居場所づくり

「ちまた公民館」を運営するのは、浜松市で23年以上、さまざまな人が共に生きる社会の実現を目指して活動してきた認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ(以下レッツ)です。重度知的障害のある方々を核としながら、文化事業、障害福祉サービス、まちづくりなどをを行っています。

レッツは「くぼたたけし」という一人の重度知的障害がある人との出逢いから始まりました。世間一般では、「問題行動」と呼ばれてしまう、彼のこだわりや

行為。それを「彼にしかできない表現」と捉えなおすことで、あるがままの姿を認め合う、そんな関係が生まれましました。そして、個人の表現、やりたいこと、熱意を大切にするという考え方は、文化創造の軸となると考えています。そして、この考え方を土台にして、2018年に浜松市連尺町に「たけし文化センター連尺町」という拠点を新設しました。ここは文化センター、障害福祉サービス、音楽スタジオ、ゲストハウス、シェアハウ

スがあり、街の文化創造発信拠点となることを目指しています。そして、2022年には浜松市紺屋町に「ちまた公民館」という私設民営の公民館を実験的にスタート。ここは、障害のあるなしに関わらず、市民だれもが使える「居場所」です。

レッツはこうした「個人から始まる場所づくり」を通じて、新しいまちのあり方を模索しています。



レッツ 場づくりの軌跡

- 2022年~
 - ちまた公民館 @紺屋町
 - ★2023年〳、地域活動支援センターに向けて準備中
- 2018年~
 - たけし文化センター連尺町 @連尺町
 - 浜松市中心市街地に重度知的障害者を核とした文化創造発信拠点を設立。
 - 障害福祉施設、フリースペース、ゲストハウスなどがある複合施設
- 2017年
 - 「表現未満」実験室 @鍛冶町
 - 多様な人々の存在を『表現』ととらえる文化活動『表現未満』を提唱。
 - 中心市街地と真ん中で、福祉施設とオルタナティブスペースを併設した場所を36日間実践。
- 2014年~
 - たけし文化センターのぐあ公民館 @入野町
- 2012年~2013年
 - みんなの居場所 @入野町
- 2011年~2014年
 - たけし文化センター INFOLOUNGE @田町・万年橋パークビル1階
 - まちなかの情報センター
- 2010年~
 - 障害福祉施設アルス・ノヴァ @入野町・連尺町
 - 知的障害がある人の障害福祉サービス事業スタート。2018年に連尺町へ移転。
- 2008年~2009年
 - たけし文化センター BUNSENDO @田町
 - 個人のやりたいことを文化創造の軸とするアートセンター
- 2002年
 - レッツ チャレンジャーハウス @鴨江
- 2000年
 - クリエイティブサポートレッツ設立
 - 2003年にNPO法人化



図解!!



ちまた公民館

A 入口

横断歩道待ちに、ちょっと一休み。フリマや本屋さん、綿菓子も出店!

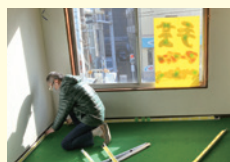


B ガチャガチャ

トレードマークの自称「世界一怪しいガチャガチャ」。レッツのスタッフやメンバー、ちま公に来た人が作ったものが入っているよ



小学生が絵を貼ってくれたよ。



ラジコンのサーキット場が床一面に出現! 子供も大人も大はしゃぎ



日当たり良好。

謎の二段ベッド

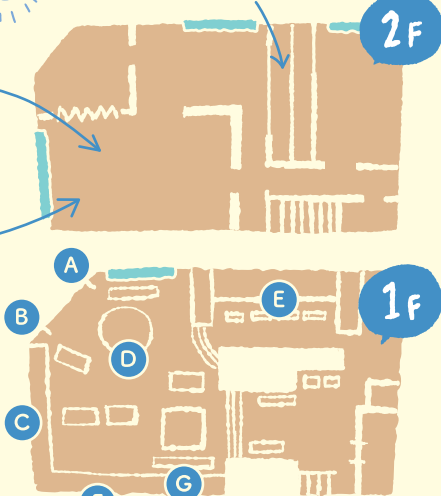
2F

E 工房スペース

集中したいとき、創作活動したいときにおすすめ。文房具や手芸グッズ、レジンなど様々な材料が揃ってます



2階からなんだか良い香りが... アロマ講座開催中



C コーヒーメーカー

コーヒー1杯50円から。おしゃべりのおともにもいかがでしょう?



G 掲示板

絵や詩、謎の一言、近隣のお店のチラシなどが毎日貼られるカオスな掲示板



D 机と椅子

自由に動かせるよ



F 本棚

雑誌やZINE、漫画を自由に持ち込みOK!



人の交差点

障害があってもなくても、だれでも自由に来れる場所。ふだん会うことのない人と出会ったりおしゃべりしたり、ただ一緒にいたり。

個人の欲望

折り紙を作りたい、みんなとボードゲームしたい、小さな部活を開催したい、展示に使いたい...そんなみんなの個人的な欲望が、ちょっと叶う場所。思いだったら遊びにきてね!

休憩

おでかけの行き帰り、通勤通学の途中、雨宿り、ついでにふらっと立ち寄る人も。

居場所

家でも学校でも職場でもない、何かしても何もしなくてもいい場所。

福祉

だれでも来れるちまた公民館、障害がある方や、レッツメンバーも遊びに来ます



ちまた公民館ができました

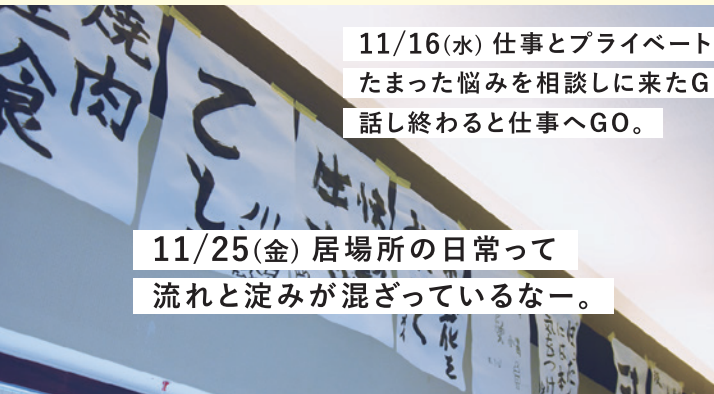
認定NPO法人クリエイティブサポートレッツは、2023年10月から実験的に「ちまた公民館」を浜松市紺屋町でOPENしました。

「ちまた」という言葉には、「ひとが交差する分岐点」「ひとが集う場所」「まちなか」などの意味があります。「ちまた公民館」はぼーっとしたい人、企画をしたい人、障害がある人、ない人、子ども、大人、だれもが自由に訪れ、使える、私設私営の公民館です。

半年というわずかな期間でも、のべ2000人以上の来館があり、講座やイベントはなんと80回以上も開催されました。普段の生活では出会うことなかった人同士が出会い、新たな交流も生まれています。

浜松の街中には商業施設はたくさんありますが、ただ、そこにいるだけでいい、そんな場所は少ないはず。ふらっと気楽に立ち寄って、昨日あったことを誰かに話せたり、お散歩ついでにぼんやりしたり、手芸やお絵かきができたり、自分の考えた小さな企画を実現できたり...。家や学校、職場とはまた違う居場所があれば、日常がすこし楽に、豊かになるのではないかと私たちは考えています。

そして、「ちまた公民館」は2023年には福祉サービ事業を利用して、地域活動支援センターとして新たに展開していく予定です。これまで同様に、だれでも利用できる場所として街の可能性を実験していきます。



11/16(水) 仕事とプライベートと
たまった悩みを相談しに来たGさん。
話し終わると仕事へGO。

11/25(金) 居場所の日常って
流れと淀みが混ざっているなー。



12/5(月) ほかに人がいないのをいいことに
ダンス動画を見ながら3人でめっちゃ踊る。



10/1(土) 本日、ちま公ランドオープン!
ワクワクとドキドキが止まらない。



ちま公の日常 前編

12/10(火) ちま公の前を通り過ぎた男性が
走って戻ってきてガチャガチャを回していた。
ガチャガチャの魅力すげー!



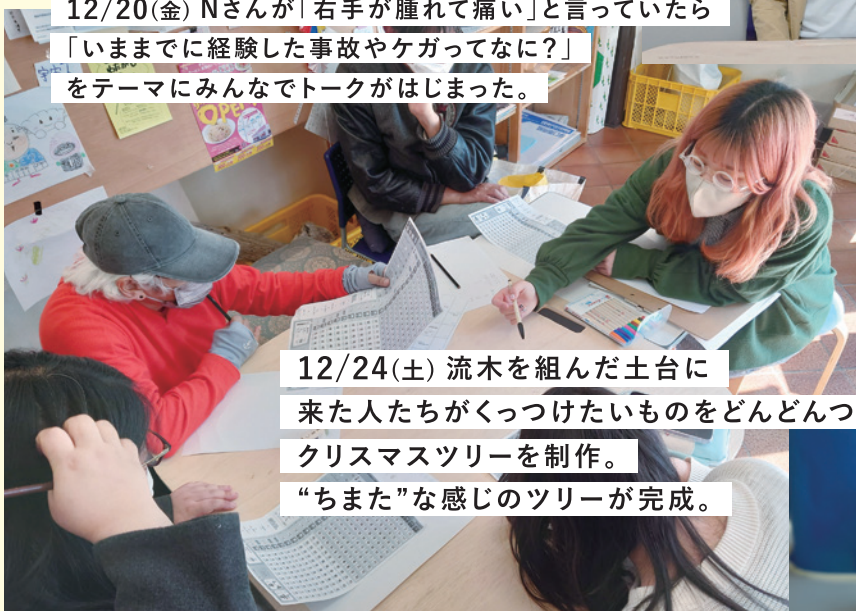
12/20(金) Nさんが「右手が腫れて痛い」と言っていたら
「いままでに経験した事故やケガってなに？」
をテーマにみんなでトークがはじまった。



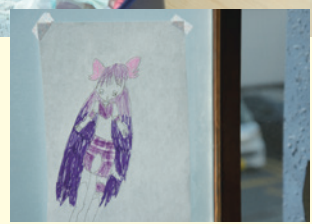
10/4(火) ガチャガチャの周りで
盛り上がる下校途中の児童たち。
登下校路の途中に
ちま公があるのか!



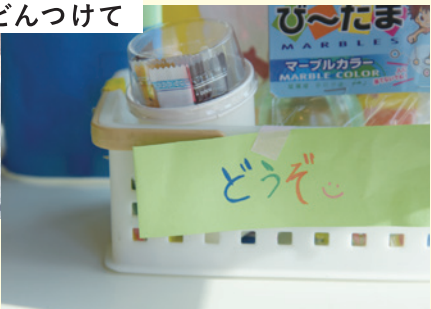
10/12(水) 女の子が来て
「もっとカワイイともっとお客さんが来るよ」
とイラストをどんどん描いて
壁に貼ってくれた。



12/24(土) 流木を組んだ土台に
来た人たちがくっつけたいものをどんどんつけて
クリスマスツリーを制作。
“ちまた”な感じのツリーが完成。



11/8(火) 「オレら、いろんな人を見たくて
ちま公に来てるんだなって気がついたんですよ。
自宅に犬と猫がいるけど、やっぱり人なんだよね。」
とHさん。



気軽に気持ちで通ってます。



れいさん (大学生)

ちまた公民館には「暇だから行ってみようかな」という気軽な気持ちで通ってます。私は人見知りなので、いまだに緊張して入るのに勇気がいるんですけど、帰る時には「また来よう」って思っているんですよね。年上の人の経験談とか、ここに来なければ喋らない人たちの話を聞くのは面白い楽しいです。自分から話すより聞いている方が楽なんですよね。あんまり内容は覚えてないんですけど…(笑)

“溜まり場”みたいな感じです。



松本さん (ラジコンおじさん)

ここは昔あった「空き地」や「駄菓子屋」みたいな場所。最近は目的がないと行けない場所が多いけど、ここは何をやってもいい“溜まり場”みたいな感じです。誰にも邪魔されない空き地で、それぞれの人が自由に遊んでいる。そんな異文化交流の場所。しかもワンコインで自分の考えた企画ができる!こんなお得なことはない!

ここはジャブくらいの軽い感じで来れるかな。



タイシさん (デザイナー)

とにかくうちの娘がここ大好きなんだよね。店番の人も遊んでる人も、「そんな褒めてくれる!?」ってくらい褒めるのが上手いんだよね。別のイベントとかは「いくよ!」って感じだけど、ここはジャブくらいの軽い感じで来れるかな。悪い影響としては、たまに娘が「さよならのだいぶつ」って言うようになってしまった。それだけです。

※「さよならの大仏」とは… ちま公によく来る天才ダジャレ名人の鉄板ダジャレあいさつのことである。

人との出会いが印象的ですね。



辻村さん (アーティスト)

人との出会いが印象的ですね。自分が企画した展示を通じて、来た人がアートに会ってくれたのはよかったな。でも80代ぐらいのおじさんと政治的な話をしたり、違う世代と考え方のすれ違いを感じたり、伝わらなくて苦しいこともあったり、ドキドキする出会いもありましたけどね。僕もこの年の、このタイミングでなければ、ちまた公民館に来なかったかもしれないしね。

最新技術を使わないところが逆にいい!



ゆっちゃん (小学生)

ちまた公民館は、ロボットがお茶を運ぶとか、最新技術を使わないところが逆にいい! 将来ここを買って雑貨店にしようかな。こどもたちにあやしまれない雑貨屋をつくりたい!

パブリックとプライベートが混ざる場。



狩野先生 (静岡大学教授)

ちまた公民館は、パブリックとプライベートが混ざる場。いろんな人のパーソナルな部分が出ている瞬間に遭遇したり、触発されて自分も喋っちゃったり、自分にも他人にも出会える場所ですね。ゼミの学生たちとここを活用しますが、ちょっとだけ非日常の場所で、就職したらできない学びや創造する経験をして、彼らがちまた公民館に徐々に馴染んでいく様子は良かったなと思いました。

訪れた人からのひとこと

イベント紹介



手話の会

手話通訳士の和田さんが主催する手話の世界やろう者の世界を知り、学び合う時間。会を重ねるごとにどうしたら伝わるか試行錯誤され、参加しやすくなりやすい工夫があちこちに。初めて知る世界も面白いと教わります。

活動日 | 土曜不定期



はじめてのラジコンはどうでしょう?

松本さんが、2階で本格的なラジコンサーキットを作ってみることから始まった、誰でも気軽にラジコンができる会。松本さんの丁寧で「ぶつかってもいいよ」と言ってくれるやさしい指導に今日もみんなは安全運転。

活動日 | 毎月1回、土曜不定期



プラモデルをつくる会

この部活は時と場合によって違います。「ガンプラ部」の時もあれば、積んであるプラモを愛でる「積みプラ部」の時も。そしてプラモデルを作るのは、団体戦。誰かがパーツを落とすと、部員全員が一丸となって探すのです。プラモを作らない人も大歓迎!

活動日 | 毎週土曜日18時~19時



出張ボードゲームおじさんのボードゲーム会

その日集まった人メンバーで楽しめるボードゲームを「ボードゲームおじさん」こと伊藤さんが、その場で選んでくれます。自分でやるとルールを理解するのに疲れてしまいがちなボードゲーム。伊藤さんが一から教え、一緒にプレイしてくれます。ボードゲーム中の机にどんな人が集まる、あら不思議。

活動日 | 土曜不定期



ボンヤリ ポーっとする

アーティスト辻村さんによる参加型インスタレーション。「ボンヤリギグスの槍」がちまた公民館2階に現れ、参加者と自由にインスタレーション! 数々の企画を生み出してきた辻村さんの今後の展示も乞うご期待!

開催日 | 不定期



静岡・狩野愛ゼミ

静岡大学の狩野愛先生のゼミ活動が地域に開かれた場所ちまた公民館で開催! その場にいる来館者も巻き込んで浜松の地域情報収集や、論文輪読会が展開。みかんの剥き方講座に話がずれてもご愛嬌で許されます。

開催日 | 毎週火曜15時~17時



ちまた公民館恒例季節行事

縁日やクリスマス会、新年会など季節の節目に開催される、ちまた公民館のお祭り!



ギャル部

メイクしたりネイルしたりするアゲな部活だよ。活動日 | 不定期



じゅんこさんの銅版画教室

おしゃべりを交えて本格的な銅版画をつくります。活動日 | 毎月第2・第4木曜日 12:30~14:30



ミドのヴぁ

毎月テーマを決めて、ゆるく話す哲学カフェ。おかし付き! 活動日 | 毎月第2火曜日 10:30~12:00

こんなイベントもやってます!

スタッフインタビュー

ちまた公民館は：

いろいろな大人に会える場所

ちまた公民館は、働いていない人、レッツのメンバー、アーティストさん、企画を持ち込んでくれる方など、いろいろな大人がやってきます。もちろん、彼らにとつての居場所でもあるのですが、個人的には若い世代や子どもたちにももっと来てほしいなと思っています。

実は私、中学校にほとんど通っていないんです。大きな理由があったわけじゃないんですけど、なんか行けなくなっちゃって。でもそんな10代の頃に周りにいた大人たちがくれた言葉ってなんだかすごく記憶に残っているんです。当たり前と思ってたことと逆のことを言ってくれる人もいました。「学校へ行きなさい」「ルールを守りなさい」といったことでなく、「校則で白い靴下しか履けないなんて、変だよな」と

いった、ちょっと違う視点を与えてくれる出会いで、気が楽になることもあります。ちまた公民館の近所に住むお母さんから「この辺は子どもが自由に遊べる場所が少ない」という話を聞きました。ちまた公民館が選択肢の一つになったら嬉しいです。

杉田 可縫

入社3年目、ちまた公民館の元気印！ハイトーンのロングヘアにオーバーサイズの服を着こなしているが、実はとってもまじめで律儀な性格。韓国文化が大好きでちまた公民館で韓国語講座やギャル部もやっています。



ちまた公民館は：

3つ以上の困りごとは、
どうでも良くなる！

ちまた公民館を始めてみて、こんなにたかきんの方が来てくれるのかと驚きました。一方で、色々な人がやってくる分、ちょっとしたトラブルも、ひとつひとつをどうにかしなきゃとすると、どんどん問題化しちゃいますよね。そこで、スタッフみんなで話し合った時に「ひとつひとつを問題にしないで、むしろ環境整備に力を入れよう。もっと多様な人に来てもらおう」「ひとつやふたつの困りごとは問題になるけど、3つ以上になったら、どうでも良くなる！」という結論に(笑)。

さまざまな人が集まり、出会いことで、困りごとにも変化が起き、何となく風穴が開いていく感じがするんですよね。私自身、シェアハウスで一緒に暮らした人、旅先で泊めてくれた人、様々な出会いに、助けられて生き延びてきたという思いがあります。家族や職場以外の居場所って、本当に大切ですよ。なんふうに、何かあったときに「ちょっと、話聞いてよ」って言って悩みを相談できたり、支えられるような出会いを、街にたくさん埋め込みたいですね。

久保田 瑛

入社6年目、金髪ポプヘアが目印。趣味は一人旅と不動産探し(ちまた公民館の次の物件も探し中!)。まちと関わる事業担当として、人と人をつなげたり、相談事に乗ったりするのが好き。時々、ちまた公民館で古着の販売もしています!



ちまた公民館は：

ぐだぐだと、
無意味なことができる場所

この良さの一つは「程よく遠い距離感」だと思います。やってくる人たちは、お互いの連絡先や詳しい属性、本名すらもよく知りません。自分の近い人に、その日話した内容をバラされる心配がない、とっても気楽な関係性なんです。そんな中で、やってくる人たちは目的なく過ごしたり、無意味なことをしたりします。こういう空気があって、実はとてもレアなことじゃないかと思っています。

街は「買い物する」「働く」など、きっちり目的が決められた場所がほとんどですよね。ちょっと自信を無くしている人や、他者とのコミュニケーションが難しいと感じている人。そんな人たちの受け皿になるのは、ぐだぐだと悩みや弱

さを見せ合い、失敗ができる場所なんじゃないかと思うんです。ちまた公民館が、そういう場所になれたら嬉しいですね。

水越 雅人

入社10年目、トレードマークは赤いチャンピオンのトレーナー。「ぶっちゃけ」と「オッケー」が口癖のみんなの兄貴的存在。日々、小ネタやユーモアを忘れず、メンバーたちからの信頼も厚い?! たけし文化センターで毎月開催される玄関ライブのMCも務める。



ちまた公民館は：

多言語
コミュニケーションの場

ここにやってくる人たちは、互いに違う言語でコミュニケーションを取っているんだなあ、と感じます。同じ日本語でも、言葉、態度、声色、背景にある価値観が違うんです。ちまた公民館は、そんなふうにいるいろいろな人たちが、流れるように行き来する場所です。

いろいろな人が来る分、情報量が多くて私の頭がパンクしちゃうこともあります。でもそんな時は、全部を受け止めようとしなくても良いのかも。他の人を会話に巻き込んだり、少し受け流したり。そんなことを繰り返しながら、自分も気楽に過ごしてみよう、と思うようになりました。やってくる人がなるべく疎外感を抱かないように、かつ私が周りに



気を使わずに疲れてしまわないように。そう心がけながら、ちまた公民館で過ごしています。

幸田 穂奈美

森町出身の静岡文化芸術大学3年生(通称ほなみん)。2022年は大学を休学してレッツにインターン。レッツが運営するシェアハウスに障害のあるメンバーとともに住みながら福祉の支援やちまた公民館の立ち上げを体験。ちまた公民館の一部メンバーには「店長」と呼ばれ、いつも笑顔でその場の雰囲気や和ませてくれる。



原 菜月さん

1992年生まれ。元新聞記者。会社を退職中にクリエイティブサポートレッツに滞在し、ちまた公民館取材すること。現在はフリーライターをしながら、障害福祉サービス事業所でスタッフをしている。シャキッとこなれた雰囲気、隙のないオーラをまとっているが、実は人見知りだったり、お笑いが好き。

原 菜月のコラムシリーズ

ライターの原さんは元新聞記者の30代女性。

仕事に疲れ休職中だった時、ひよんなキッカケでちまた公民館取材することに。

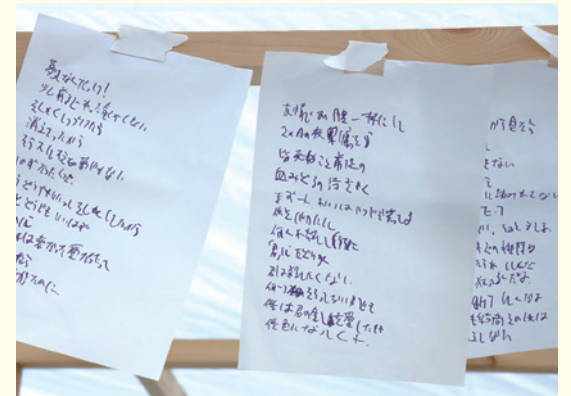
定期的にちまた公民館に通い、

「来訪者」、「取材者」として日々様子を丁寧にコラムに綴ってくれました。

その数なんと11本!ここではほんの一部を掲載しています!

ぶれる境界線

2021年秋、大好きだったはずの仕事に疲れ切ってしまった。このままではだめだと思いつつも力が出ず、数か月はソファで横たわっていた。そんな私を見かねた友人が紹介してくれたのが、浜松市で障害福祉事業を運営するNPO法人クリエイティブサポートレッツだった。
重い腰をあげて訪ねてみたけど、特に何もなかった。利用者さんが走り回るのを眺めたり、時々おしゃべりにまぎれてもらったり。最初はどう過ごせば良いのか戸惑ったけど、誰も何も言っていないし、変な目で見られることもない。人と話す気になれず、こたつで昼寝した日もある。
レッツは、家でも職場でもない、自分にとっての「サード・プレイス(第3の居場所)」になった。カフェとの違いは、何も買わなくても居させてくれることだ。誰もジロジロ見たくないけど、すこしだけ関心を持ってくれる。ハブニングは多々あるけど、くすつと笑える出来事も



たくさんある。人見知りの自分にとっては、ちょうど良い心地よさだった。
たぶんあの場で過ごしたこと、自分と他者の間の境界線が少しずつ曖昧になっていった。あなたはあなた、私は私。属性も性格も関心も違うし、時々摩擦も起きるけど、だからといって関わりがゼロなのも寂しいじゃん? そんな雰囲気のおかげで、日々の暮らしで身にとまった「鎧」のようなものが、少し軽くなった気がした。
レッツがそんな居場所を街中へ拡張するというので、今度は取材という名目で浜松市を訪れた。商店が立ち並ぶ交差点の一角に10月、「ちまた公民館」はオープンする。障害の有無に関係なく、銅版画



出張ちまた公民館@松菱百貨店跡地

2022年10月に開催された「オン・ライン・クロスロード2022」にて、屋外でちまた公民館をひらく実験をしました。

の講座や映画の上映会に参加することもできるし、コーヒーを飲むこともできる。自分の作業をしても、おしゃべりしても、ただ座っていても良い。疲れてすぐに退散したって、誰もとがめない。そんな場所がまた一つ増えるなんて、私は浜松市民が心底うらやましい。
自分はどういうと、その後体調は少しずつ回復し、7年勤めた会社を思い切って辞めた。それでも人見知りには直らないし、新しい仕事や人間関係で、鎧はきつとまた重くなっていく。そんな時は再びサード・プレイスに逃げ込んで、人と話したり話さなかったりしながら、少しずつ整えれば良い。ちまた公民館で取材するふりをしながら、ぼーっと過ごす未来が見える気がする。



原 菜月のコラムシリーズ

全文はちまた公民館webとInstagramに掲載しています。



◀ちまた公民館web



◀Instagram



不器用なミサンガ

ち また公民館が面する交差点は車通りが多く、朝は渋滞がひどいらしい。平日午後も仕事へ向かう人、下校する学生、散歩する高齢者らが頻繁に行き交う。繁華街とまではいかないけど、閑静でもない。そんな街中で9月上旬、ちまた公民館がプレオープンを迎えた。少し古い建物の1階部分には、大きな木製の机が3台と丸椅子、本棚、銅版面の機器などが置かれている。およそ10坪の、簡素でこじんまりとした空間だ。

足を踏み入れてしばらくキョロキョロしていると、女性スタッフさんが「お茶はないけど」と苦笑いしながら、「ばかうけ」と「ルマンド」を手渡してくれた。手元には裁縫セットが置かれている。他のスタッフさんが「暇つぶしに何か持っていたほうがいいよ」と言われ持参したら



しい。スタッフさんは少し話した後にもまた作業へ戻り、黙々ときんちゃく袋を縫い始めた。奥のテーブルでは、カップルがミサンガを編んでいる。ミナさんとちゃんさんというらしい。「はじめまして」と簡単に挨拶を交わし、目の前の丸椅子に腰をおろした。

交差点を行き交う車のエンジン音と、一定のリズムで刻まれる信号機の音が聞こえてくる。静かすぎず、

明るすぎない、絶妙な心地よさ。開放されたガラス戸のほうから時折そよ風が入ってきて、残暑の嫌な感じが和らぐ。裁縫するスタッフさん、ミサンガをつくるミナさんとちゃんさん、窓の外を眺める私。4人が同じ空間にいて、時々言葉を交わすけど、それぞれが違うことしている。

中の空間も素敵だけど、何といてもこの立地が絶妙だ。歩道に面していて、通行人との距離が近い。信号待ちする人は、否が応でもガラス戸の目の前に立つことになる。物珍しそうにのぞき込む人もいれば、目が合つて気まずいのか、足早に過ぎる人もいる。みんな目的地向かって歩いているけど、何かの拍子で一歩踏み外したら「入館」してしまう。文字通り、誰にでも門戸が開かれている状態だった。



レ ツがちまた公民館の近くで運営している「たけし文化センター連尺町」では、毎月「玄関ライブ」が開かれている。利用者さんやスタッフさんがギターやドラム、ピアノを演奏し、思い切り歌う。朗読する人もいる。地鳴りのようなシャウトをする人もいる。観客は一緒に歌ったり、踊ったり、黙って座っていたり、それぞれの過ごし方でライブを堪能する。言ってしまうえばカオス状態だ。

スタッフの水越さんによると、この玄関ライブは毎月継続して開くのがみそらしい。たとえ9月のライブで失敗したって、10月に再チャンスがある。その保証があるおかげで、大胆にチャレンジしやすくなるという。「ちまた公民館も、気軽に失敗できる場所にしたいですよね」と水越さんは言う。「失敗ってたぶん、理想と現実の間にギャップが生じたときのことを言うでしょう。そのズレを繰り返して修正したり、受け入れたりする経験を積んで、人は初めて意味

を獲得していくと思うんですけど、その時一緒に考えてくれる人の存在が必要だと思うんです」。たしかに、味方が一人いるだけで全然違う。その役目を、ちまた公民館にいる人たちが担うということか。「でもお互いによりかかりすぎると、しんどくなっちゃうでしょ。失敗したときに誰かが『オッケーオッケー』ってひとこと言うだけでも全然違うし、何より多様な人とかかわって、みんな



色々な形の失敗をしているんだなあと知るだけでも救われると思うんですよ」。

水越さんによると以前、利用者さんが「見て見て、こんなに重いものを運べるよ」といった様子でストローを持ち運び、灯油がこぼれてしまうハプニングがあったらしい。その場には水越さんは、灯油を見て固まった。「こぼれるよ!」と注意したところで時間は戻らない。力自慢ができた利用者さんは誇らしげな顔をしている。この状況を受け入れるしかないと思いき、出てきた言葉が「オッケーオッケー」だったそうだ。「失敗と判断しちゃうと、状況が固定されてしまう。そうすると、転換したり広げたりしにくくなっちゃうことがあるんですよね」と水越さんは当時を振り返る。

この話を聞いた後、自分にとっての「失敗」って何だろう、と考えてみた。小学校低学年の時、バレエの発表会本番でシューズが勢いよく脱げ、舞台袖へ飛んでいったことがある。

当時のビデオには、6歳ぐらいの私が慌ててシューズを拾いに行く様子が映っている。でもなぜかその時、めちゃくちゃ笑顔だったのだ。普段は全然そんなタイプではないのに、「オイシイ〜！」とでも言うような顔をしていた。

お遊戯のような発表だったとはいえ、客観的に見れば、このハプニングは「失敗」だと言える。でも、自分の中では不思議とそう記憶されていない。先生には特に叱られなかったし、ビデオを撮っていた母親は爆笑していた。まさに「オッケーオッケー」状態。おそらくそうなると思分かつていて、当時の私は安心して「オイシイ〜！」という顔をしていたのだ。

一方、今はどうだろう。大人になるにつれて周りに失望される恐怖が増していき、仕事でミスをしたときや空気が読めない発言をしてしまったとき、「ダメなやつだと思われたかもしれない」とウジウジするようになった。「こう見られたい」、または「こうは見られたくない」とい

う欲が強すぎて、現実とのギャップにもがき苦しむ。たぶん今の自分にとつての「失敗」は、物事が思い通りに運ばなかったことではなく、他人からの評価が下がることなのだ。そう考えると、「失敗した人」と烙印を押すのは他人ではなく、実は自分なのかもしれない。自分に対して「オッケーオッケー」と言えるようになって、初めて他人に対しても言えるようになるのかもしれない。逆

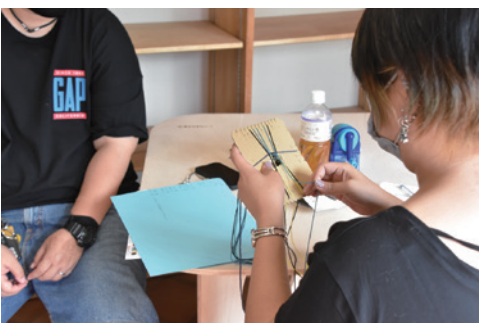


ができてあがる仕組みだ。ちやもさんは手先が器用で、メモを見ずにスイスイと糸を巻き付けていく。一方のミナさんは「(工程を)一周しただけで、かなり疲れちゃいますね」と苦笑する。二人の作業を観察していたら、「やりますか?」と声をかけてくれたので、参加してみた。お恥ずかしいが、私は針に糸を通すだけでかなりタイムロスするほど不器用で、裁縫は大の苦

手。予想通り苦戦しているのを見かねてか、ちやもさんがメモを指さしながら教えてくれた。ゆっくりゆっくり、慎重に糸を巻き付けていく。複雑な作業ではないけど、集中力がある。うへえ。ミナさんが小さく笑う。「一緒に作る人が多ければ多いほど、誰が失敗したかも分からないから大丈夫ですよ」。

さらげない、ミナさんの言葉だった

が、なるほど、と思った。人によつて得意・不得意があるのは当たり前。



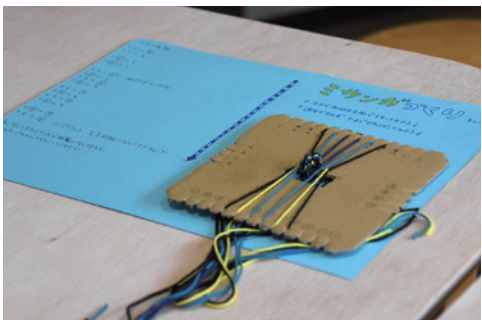
その大前提のもと、いつそのこと責任の所在をあいまいにしてしまうことは、実はとても大事なのではない。会社員として、だれかの親として、だれかの子どもとして、(あえて2分間で言うならば)男性や女性として。私たちは日々役割に縛られ、何かしらの責任を果たそうとしている。でもここではもつと、ぐちゃぐちゃでも良いのかもしれない。役割も責任も求められない、誰もジャッジしてこない。そんな安全地帯のような、無法地帯のような場所

に言えば、今まで自分は心のどこかで、他の人に対して「失敗した人」と勝手な評価をくだしていた可能性がある。そう考えるとぞつとする。

とはいえ、自分も他人もジャッジしないなんて可能なのだろうか。そんな聖人のような域に達する日が来るとは到底思えないし、毎日「オッケーオッケー」と笑い飛ばす体力はない。なんだか自分語りなが長くなってしまったけど、せっかく今回は「失敗できる場所」をつくる過程を観察させてもらうのだ。この際、自分の奥底に潜んだドロドロとしたものを丁寧に分解してみようと思う。



ナさんとちやもさんのカプルがちまた公民館へ来るのは、この日が3回目だそう。お気に入りポイントを聞くと、「静かなところ」と返ってきた。「でも、静



がひとつくらい無いと、日々の生活でがんじがらめになってしまうのかもしれない。ミナさんとちやもさんはとても自然に、そしてささやかに、水越さんが目指す「失敗できる場所」を具現化しつつあると思った。

二人はこのミサンガキットを公民館に置いておき、誰でも編めるようにするという。やつてきた人みんなですしずつ編んで、1本のミサンガを完成させていく。ほつれていたって誰

かすぎないのが良いんですね。午後3時過ぎになると、下校途中の小生たちが珍しそうにガチャガチャを見ていくんですけど、その様子が結構面白いんですよ」と教えてくれた(ちまた公民館の窓越しには、レッツの利用者さんやスタッフさんが作ったグッズ入りのガチャガチャが設置されている)。

もともとレッツが運営する障害福祉サービスマン「アルス・ノヴァ」の利用者だったミナさんは、お父さんから「お手伝いしてきなさい」と言われ、ちまた公民館に足を運んだという。「まあ、何もしてないんですけど」とミナさんは笑う。「いるだけで良いつて案内に書いてあったので。それなら得意だと思つて、ここに来てます」。反対にちやもさんは、何かしていないと落ち着かないらしい。そこで持ってきたのが、ミサンガの手作りキットだった。段ボールで作った台紙と、編み方の手順を記したメモ。このメモに沿って台紙に糸を巻き付けていくと、ミサン

も責めないし、そもそも誰が失敗したのかはわからない、ゆるやかな連帯感をともなう作業だ。ミナさんは「どうすればこの運営を手伝えるのかは分からないけど、キットを置いておくだけなら邪魔にならないし、良いんじゃないかなと思つて」と話してくれた。

ちまた公民館は、机といすと本棚が置かれた、とてもシンプルな空間だ。「その日に偶然居合わせた人たちがつくりあげる場所」と言つても過言ではない。でも、なにも張り切る必要はない。誰かが100頑張るのではなく、それぞれが5ずつ持ち寄る場所なんだろうと思う。何ならゼロでも構わない。きつと、気が向いた人がのんびりミサンガを作つて、ちよつと失敗するぐらいがちょうど良い。

全文
読みたい方は
こちらから!



ちまた公民館web
原さんコラム



2/20(月) Wさん、昨日開催の大会で準優勝だったそう。2位と書かれた景品をテーブルの上に置いて静かにアピール。



1/16(月) 下校途中の小学生に手を振ったら振り返ってくれた。顔には出さなかったけど、すごくうれしい。

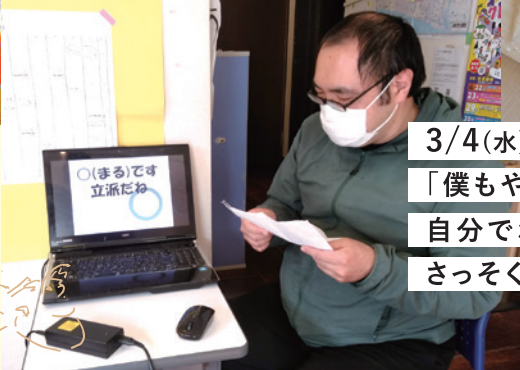
1/4(水) 今年最初の来館者はRさん。「年末年始にみんなへの手紙を家で書いてきた」と言って車いすから出てきた手紙30通。



1/30(月) 新しい人が公民館に来るようになって、楽しいことが増える。反対に、初対面が苦手な人たちにとっては不安が増える。起きていることは目に見えることばかりじゃないな。



3/4(水) 外からわたがし機を見つけた子ども3人が「僕もやりたいです!」とやってきた。自分でわたがしをつくるのが初めてみたい。さっそく割りばしを渡して初チャレンジ!

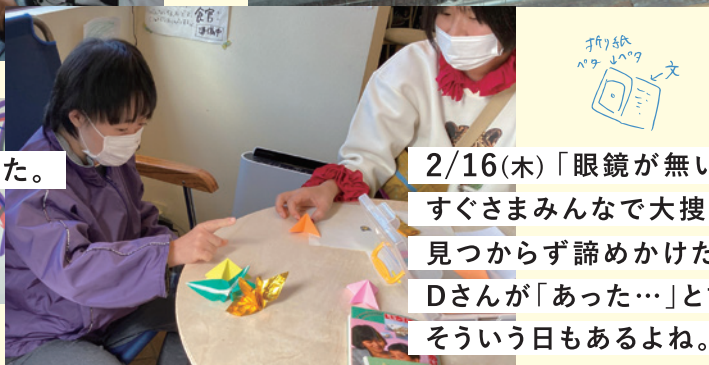


3/17(金) Tさん、ちま公で話していたら「ポーッとボンヤリするイベント」がひらめいたそう。そこから生まれた「ボンヤリギヌスの槍」。



ちま公の日常 後編

3/28(火) 「最近、ちま公が居づらい」という声があった。誰かの居場所になっている一方で、誰かの居場所になっていない状態。居場所とはなんだろう。たまにモヤモヤする。



2/16(木) 「眼鏡が無い!」とDさんが突然の一言。すぐさまみんなで大搜索。見つからず諦めかけたとき、Dさんが「あった…」と言ってポケットから眼鏡をそっと出す。そういう日もあるよね。



編集後記

ちまた公民館スタッフの杉田です。この半年間、あの小さな建物には収まりきれない、本当にいろいろなことが起こっていったんだなあと実感しています。関わってくださったみなさま、この冊子を読んでくださったみなさま、本当にありがとうございます。

わたしは入社3年目になるのですが、アートの手法で出会うの場をつくることに興味があつて「ちまた公民館の担当やりたいです」と手をあげました。認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ（以下レッツ）は、アートNPOとして「場づくり」を20年間つづけてきた団体です。そして2022年10月より、地域のだけれどもが利用

できる私設公民館をまちなかにつくりました。休憩に立ち寄りたり、創作活動やイベント開催ができるのはもちろん、「居場所」の機能を持った公民館です。

公民館を開いて数ヶ月経つと、週に数回来るひとや、毎月イベントを開催する常連さんも徐々に増えていきました。常連さんが増えるのは嬉しい一方で、場が固定化してしまうあやうさもありました。場の空気が固まってしまうと新しい人は入りづらく、面白いことが生まれにくい場所になってしまします。またそれぞれの「自分の居場所」がぶつかって、衝突やモヤモヤも生まれてきます。それはわたしも例外ではありませんでした。実際に、来館した人との意見がぶつかることもありました。考え方も心地よさも体調

もひとそれぞれで、毎回みんなが仲良く過ごすなんて不可能では…とも感じています。でも仲良くならなくても、お互いの存在を認め合つて折り合いをつけて過ごしていくなかで、だんだん形作られていくものがあるのかなと思っています。

ちまた公民館は、来てみないとよくわからない場所です。「居場所」と聞いてピンとこないひともいると思います。こういう場所が必ずしも全員に必要なかどうか、正直よくわかりません。ただ、ないよりあったらいいという人や、知らず知らずのうちに自分の居場所を持っているひともいるのではと思います。日常や社会への不安とか、正体不明の閉塞感とか、そういう言葉にできないどんよりしたものがやわらぐヒントは、少し日常から離れたところにあるので

はと思います。居場所は自分ひとりで作ることはできません。だからわたしたちは、いろんな人たちといっしょになって場所をつくらうと「ちまた公民館」をひらきました。

少しでも気になったという方は、ぜひ一度ちまた公民館に遊びにきてみてください。すぐ帰ってもいいんです。でもちょっとぼーっとしてみたり、おしゃべりしてみたり、コーヒーを飲んでみたりしてください。面白いことがあるかもしれません。そういう小さな出会いや発見が積み重なって、社会が変わっていくのだと思います。そう信じて、明日もちまた公民館をひらいていきたいです。これからもどうぞよろしく願っています！

スタッフ 杉田

ちまた公民館

〒430-0938
静岡県浜松市中区紺屋町217-30

[アクセス]
遠州鉄道鉄道線第一通り駅から徒歩10分
たけし文化センター連尺町から徒歩5分

※駐車場、駐輪場はありませんので、
コインパーキングへ駐車いただくか、公共交通機関でお越しください。



ちまた公民館web



ちまた公民館
Instagram

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ

〒430-0939
静岡県浜松市中区連尺町314-30 たけし文化センター連尺町

[お問い合わせ]
電話番号 | 053-451-1355 (たけし文化センター連尺町)
メール | lets-arsnova@nifty.com



レッツweb

[法人理念]
NPO法人クリエイティブサポートレッツは、障害や国籍、性差、年齢などあらゆる「ちがいを乗り越えて人間が本来もっている「生きる力」「自分を表現する力」を見つめていく場を提供し、様々な表現活動を実現するための事業を行い、全ての人々が互いに理解し、分かち合い、共生することのできる社会づくりを行う。特に、知的に障がいのある人が「自分を表現する力」を身につけ、文化的で豊かな人生を送ることの出来る、社会的自立と、その一員として参加できる社会の実現を目指す。そして、知的に障がいのある人も、いきいきと生きていけるまちづくりを行っていく。

[事業概要]
■たけし文化センター連尺町
重度の知的障害者を核としながら、様々な人たちが集い・学び・交流する文化センター。

■障害福祉サービス事業所 アルス・ノヴァ
大人から子どもまで、様々なメンバーが利用する障害福祉施設。連尺町と入野町の2拠点で活動中。

■ヘルパー事業所アルス・ノヴァ ULTRA
重度知的障害者の「文化的で自立した暮らし」の実現を目指し、生活のアシスト活動を行っている。